

## 「パウロ、弁明する 4」

2016年09月01日

使徒言行録 22 章 17 節～21 節 「さて、わたしはエルサレムに帰って来て、神殿で祈っていたとき、我を忘れた状態になり、主にお会いしたのです。主は言われました。『急げ。すぐエルサレムから出て行け。わたしについてあなたが証しすることを、人々が受け入れないからである。』わたしは申しました。『主よ、わたしが会堂から会堂へと回って、あなたを信じる者を投獄したり、鞭で打ちたたいたりしていたことを、この人々は知っています。また、あなたの証人ステファノの血が流されたとき、わたしもその場においてそれに賛成し、彼を殺す者たちの上着の番もしたのです。』すると、主は言われました。『行け。わたしがあなたを遠く異邦人のために遣わすのだ。』」

パウロは、ユダヤ人が最も大切にしている律法やエルサレム神殿をないがしろにし、モーセから離れるように教えていると噂が立てられている。この噂を払拭するために、教会の長老たちから神殿で清めの儀式を受けるように促され、神殿に行き、清めを受けた。ところが境内で、パウロは異邦人を神殿に連れ込み、聖なる神殿を汚したと糾弾された。怒った群衆はパウロにリンチを加え、殺そうとして、大騒ぎになった。ローマの千人隊長がパウロを捕らえ、騒ぎの真相を調べるために兵舎に連行しようとした。その時、パウロは群衆に弁明することを求めた。弁明を許されたので、ヘブライ語で、出自や生い立ちや、復活の主イエスに出会ったこと、アナニアから告げられたなどを堂々と語った。そして、主イエスの名によって、罪の赦しの洗礼を受けたことも述べた。

上記の弁明は、その最後の部分に当たる。書かれていることは、下記の通りである。パウロは復活の主イエスに出会い、洗礼を受けた後、エルサレムに来て、神殿で祈っていた。すると、我を忘れたような状態になり、主イエスにお会いした。その時、主イエスは、「急げ。すぐエルサレムから出て行け。わたしについてあなたが証しすることを、人々が受け入れないからである」と告げた。パウロの証をユダヤ人は受け入れない。だから、エルサレムを出て、異邦へ行けと言われた。パウロは「主よ、わたしが会堂から会堂へと回って、あなたを信じる者を投獄したり、鞭で打ちたたいたりしていたことを、この人々は知っています。また、あなたの証人ステファノの血が流されたとき、わたしもその場においてそれに賛成し、彼を殺す者たちの上着の番もしたのです」と、以前のパウロは律法に熱心な者で、キリスト教徒を迫害していたと答えた。すると主イエスは、「行け。わたしがあなたを遠く異邦人のために遣わすのだ」と、パウロをユダヤ人ではなく、異邦人のために福音宣教者として遣わすと言われた。神殿でこのような会話をしたと弁明している。

使徒言行録 9 章では、パウロは復活した主イエスに出会った後、すぐに福音を宣教する者になったと記している。ガラテヤ書 1 章 12 節では、「また、エルサレムに上って、わたしより先に使徒として召された人たちのもとに行くこともせず、アラビアに退いて、そこから再びダマスコに戻ったのでした」と書いている。従って、上記のようにエルサレムに帰って来たというのは事実とは違うようである。律法と神殿に忠実であることを弁明するため、神殿で主イエスとお会いしたと言ったのであろう。しかし、パウロの宣教対象はユダヤ人ではなく、異邦人であると明言している。ユダヤ人でありながら、ユダヤ教とは異なる信仰を異邦人に伝える使命を与えられたという弁明は、群衆に到底受け入れられることではなかった。群衆の怒りは更に、燃え上がっていったことは容易に想像できる。